

作成年月日	平成27年7月21日
作成部局	産業労働部国際局
課室名	国際交流課

知事の海外出張（イタリア共和国・フランス共和国）の概要

イタリア共和国ミラノ市で開催中の「ミラノ国際博覧会」への本県出展（ひょうごウィーク 7月16日～19日）に合わせて同市を訪問し、同博覧会日本パビリオン、同市内イベント会場でトップセールスを行うことにより、本県の農畜水産業・観光振興につなげるとともに、この機にフランスを訪問し、本年、友好交流15周年を迎えたアヴェロン県、今春の県議会選挙の結果、新政権が発足したセヌ・エ・マルヌ県及びノール県を訪問し、これら友好交流県とのさらなる交流の推進について協議、確認した。

パリではフランス政府のカネール都市・青少年・スポーツ大臣（元ノール県議会議長）及びマセ外務省次官（前駐日大使）と面談し、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に際し、仏選手団による日本国内における事前合宿について本県での実施を働きかけた。また、フランス政府からの招聘により7月14日のフランス国民祭式典に参加した。さらには、パリ・ブローニュの森のパーティー会場で各国外交団を招いて開催される“ディプロマティック・ガーデン・パーティー”において淡路人形浄瑠璃の公演を行った。また、パリ外国人記者協会において、兵庫県のプロモーションを行った。

記

1. 期 間 平成27年7月12日（日）～7月20日（月・祝）
 2. 訪問地 イタリア共和国 ミラノ市
フランス共和国 アヴェロン県、パリ市、セヌ・エ・マルヌ県、ノール県
 3. 主な内容
 - (1) ミラノ国際博覧会
 - ア プロモーション活動
 - ① 兵庫県主催ミラノ市内プロモーション
 - 日時等：平成27年7月17日（金） 19:00～22:00
 - 場 所：ミラノ市内 イベント会場「パラッツォ・ピイレッリ」
 - 参加者： 約410名
- (欧州側)
ロンバルディア州議会 カッタネオ議長、在ミラノ日本国総領事館 古賀総領事、欧州青年調理師会 サドラー会長、ビゴッティ：シェフ（イタリアの食材会社所属）、元サッカーイタリア代表元ACミラン バレージ氏（6番はACミランの永久欠番）、エルンスト・クナム チョコレートの人気シェフ 等
- (兵庫県側)
井戸知事、石川兵庫県議会議長、新岡農林水産部長、岡田国際局長、水口観光監、灘五郷酒造組合 嘉納理事長 等

○内 容：

欧州のハイクラスゲストをターゲットとしたプレミアムプロモーション実施の機会にトップセールスを展開し、県産農畜水産物輸出やインバウンドの増加等を図るため、知事自らがひょうご五国「農」「食」「観光」の魅力を発信した。

(挨拶)

まず主催者挨拶として、知事から、「自然と人が織りなす多様性に富んだ兵庫県から、神戸ビーフをはじめ最高級の食材とトップシェフによる伝統料理を持ち込んだ。」ことを強調し、観光資源にも富んだ兵庫県をPRした。ミラノ側を代表しロンバルディア州議会のカッタネオ議長からは、ミラノ博出展への謝辞を述べた後、日本とイタリアの友好関係に触れ、「今回の一連のイベントにより、関西とロンバルディアのこれまでの友好関係に兵庫という新たな関係が加わることを期待する。」との挨拶があった。鏡開きに続いて、石川議長の乾杯発声により試食会が始まった。

(書)

書家 木下真理子氏による公開揮毫で「ひょうご めぐみ きわみ たくみ うまみ なごみ の食」とひょうごの食の魅力を発信した。

(料理)

続いてスペシャルゲストシェフ3名が登場。中西彬 県調理師会名誉会長による「神戸ビーフケーキ丼」、片岡護シェフによる「神戸ビーフのしゃぶしゃぶ胡麻だれジェノベーゼ添え」、マティオシェフによる「丹波黒豆のスプーマ、淡路島たまねぎのクリームスープ」なども振る舞われた。

(淡路人形浄瑠璃)

最後に淡路人形浄瑠璃の上演（戎舞）も行われ、兵庫の「食」を中心に多くの参加者が兵庫の魅力を堪能した。

(セミナー・商談会等)

なお、これに先立ち15:00～19:00に行われたセミナー・商談会等においては、チョコレートのコンクールの世界チャンピオンの小山進氏及び銀座の著名寿司店の杉山衛総料理長を講師とした2つのセミナーに多くの聴衆が詰めかけるなど約320名の参加者で賑わった。



② ミラノ国際博覧会 兵庫県プロモーション

○ 日 時：平成27年7月18日(土) 13:00～15:00

○ 場 所：ミラノ市内 ミラノ国際博覧会日本館

○ 参加者： 来客約1,500名

(日本館側)

加藤日本館政府代表、井原事務局長・副館長 等計7名

(兵庫県側)

井戸知事、石川兵庫県議会議長、新岡農政環境部長、岡田国際局長、水口観光監、食・農・観光関係出展企業団体 等

○ 内 容 :

井戸知事は開会挨拶の中で「会場の暑さに負けて食事を控えるのではなく、この暑さに負けないようにたくさん食べてください。兵庫から世界最高の食材をたくさん持ち込んだので、是非とも兵庫の魅力を味わってほしい。」などと述べ、熱波に襲われた会場で兵庫の食と観光をアピールした。引続き、鏡開きが行われその珍しさからか注目を集めた。書家 木下真理子氏による公開揮毫や淡路人形浄瑠璃の上演(戎舞)も行われた。戎舞では、イタリア語で台詞をまわし、最後に「ペルラ プロスペスタ ディ ミラノ イヒョゴ サルーテ」(ミラノと兵庫の繁栄に乾杯)と発声されると、会場は大きな歓声と拍手に包まれた。



※参考 別添1：ミラノ国際博覧会における兵庫県出展の概要（速報）

イ 博覧会会場の視察

① イタリア館視察

○ 日 時：平成27年7月17日(金) 14:00～14:45

○ 場 所：ミラノ国際博覧会 イタリア館

○ 参加者：

(イタリア館側)

ブラッコ伊政府代表、グリロ伊館事務局長、チャンベッティ ベネト州議会議長 等計8名

(兵庫県側)

井戸知事、葦県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計8名

○ 内 容：

(イタリア館政府代表表敬)

イタリア館グリロ事務局長からの歓迎挨拶に続き、知事から訪問団受入の謝意を述べ、日本館のテーマの一つであるコウノトリは兵庫県が再生したことを紹介するとともに「兵庫県として自然と人の共生が大きなテーマとなっており、兵庫の自然が育んだ、米、野菜、牛肉、日本酒などを味わってもらおうと『Feel Hyogo, the Taste of Japan!』をテーマにしている。当日夜にピイレッリで日本食材を使ったイベントがあるので是非、来てもらいたい。」等、兵庫県のイベントをP

Rした。ブラッコ・グループの会長でもあるブラッコ イタリア政府代表からは、ジャパンデー前日に安倍総理夫人が訪問されたこと、今回の博覧会のテーマの一つが「女性とエキスポ」であることが紹介された。同席していたベネト州（州都ベネチア）議会のチャンベッティ議長からは、州内には多くの食品工業が立地していること、観光客が年間6千万人に上ること、州内の大学に日本語学科があり、多くのイタリア人学生が日本語を学習していることなど、ベネト州の紹介があった。



（展示視察）

表敬の後、イタリア館スタッフの誘導により、今回万博の一番人気であるイタリア館を視察した。イタリア館は3つのゾーンで構成され、メイン施設である「パラッツォ・イタリア」（イタリア館）の展示を通じ、イタリア各地の観光、食文化を映像やCGを使用して紹介する様子を視察した。このメイン施設のほかにも会場のシンボルとなっている「生命の樹」、各地方を順次紹介する別館に加え、フードコートなども含めてイタリアをPRしている旨の説明を受けた。



視察したメインは、大きく次の3つの展示に分かれていた。

- 1) イタリア21州の魅力を紹介をする展示
- 2) イタリアを代表するローマ、フィレンツェ、パレルモの青果市場を再現し各地の特産品を紹介する展示
- 3) 未来を担う子どもたちが「食」に関する体験学習をし、その成果を発表する展示

② 日本館視察

○ 日 時：平成27年7月18日(土) 10:00～12:00

○ 場 所：ミラノ国際博覧会日本館

○ 参加者：

（日本館側）加藤日本館政府代表、井出事務局長・副館長 等6名

（兵庫県側）井戸知事、養県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計9名

○ 内 容 :

(加藤日本館政府代表表敬)

日本館の加藤政府代表からは、日本館は一日平均8千人の入場者がありミラノ万博の人気パビリオンの一つになっていること、日本館の演出としては、産地から食卓までを旅のように自然と四季で体感してもらうこと、そして人口爆発や食糧危機への日本の取り組みをアピールすることに努めている旨の説明があった。



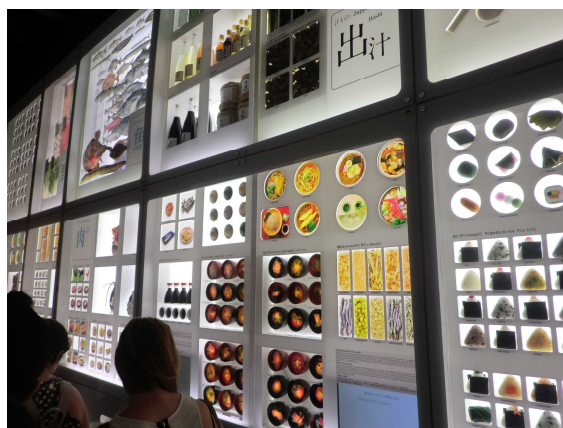
(展示視察)

その後スタッフの案内により、日本館全体を視察した。

日本館は、「共存する多様性」を館全体のテーマに、展示室を移動する毎に、次の3つサブテーマに沿って展示されていた。

- 1) 日本の農産物の産地と食文化の多様性
コウトリの舞う日本の自然が育む食の多様性を展示
- 2) 地球的課題への日本の創造的な解決策
回るバーチャルな地球儀に、人口爆発や食糧危機と日本の支援を展示
- 3) 日本食が世界をつなぐ「未来食」

「いただきます」「ごちそうさま」といった日本の自然や食に関する考え方が、地球上の人々の健康的な食生活に後見する「未来食」となることを展示



(2) フランス友好交流県等訪問

ア アヴェロン県訪問

① ジャン・クロード・ルッシュ議長との交流協議及び共同声明調印等

○ 日 時：平成 27 年 7 月 13 日（月）11:00～12:00

○ 場 所：ロデーズ市内 アヴェロン県政府庁舎

○ 参加者：

(アヴェロン県側)

ルッシュ議長、ソール副議長（国際担当）、ブランケ前副議長（国際担当）、ヴィアラ県経済協会会長（前県議会副議長：経済担当）、ポルテッリ県総務局長、カルメット県経済協会局長 等計約 20 名

(兵庫県側)

井戸知事、養県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計 8 名

○ 内 容：

(交流協議及び共同声明)

ルッシュ議長からは、「知事の訪問を歓迎するとともに、1998年から始まった両県の絆は、2000年のジャパンフローラへの出展、神戸への経済ミッションの派遣、ミクロポリスでの学術会議、柔道交流と相互の経済発展を視野に入れつつも総合的な取り組みが行われてきたことを高く評価している。今後、国際交流担当となるソール新副議長のコミュニケーション能力に期待し、兵庫県との交流をますます発展させていきたい。」との決意が表明された。これを受けて知事からは、交流開始15周年を記念しての訪問歓迎の謝辞に続き、表敬に先立って訪問したベルキャステル村でアヴェロン県と兵庫県の友好の象徴である「アヴェロン・ひょうご友好の橋」を渡り、除幕式に臨んだことを報告するとともに、ブランケ前副議長の永年の功績への感謝が表明された。

この後、互いが文化、経済、自然など幅広い交流を続けてきたことを評価し、井戸知事、ルッシュ議長による共同声明の調印が行われた。



※参考 別添2：アヴェロン県との共同声明

(ブランケ前副議長の県功労者表彰)

共同声明調印に引き続き、同県議会国際交流担当副議長として交流開始当初から永年にわたり本県との交流に取り組んだピエール・マリー・ブランケ前副議長に知事から県功労者表彰が授与された。

ブランケ前副議長からは、「これまでの努力が今日初めて形になったような喜びを感じる。機会を作ってまた兵庫県を訪問したい。」との謝辞があった。

この後、調印後の交流パーティーにおいては、高級手袋で有名な“ガンコス社”から、知事に皮手袋のサプライズ贈呈があった。手のサイズをインターネットの写真情報から想定したものだが、サイズがピッタリだった。またベルキャステル村特産のナイフも贈呈されるなど、アヴェロン県らしい温かい雰囲気の中、歓談が行われた。



② ベルキャステル村「アヴェロン・ひょうご友好の橋」プレート除幕式

○ 日 時：平成27年7月13日(月) 10:00～10:30

- 場 所：ロデーズ市 ベルキャステル村
- 参加者：
 - (ベルキャステル村側)
 - ベシエール村長、カイラ前村長（友好の橋建設時の村長）等計4名
 - (アヴェロン県側)
 - ソール副議長(国際担当)、ブランケ前副議長(国際担当) 等計6名
 - (兵庫県側)
 - 井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計8名
- 内 容：

中世の街並みを残し「フランスの最も美しい村」にも選定されているベルキャステル村を訪問し、ベルキャステル城、「アヴェロン・ひょうご友好の橋」などを視察した。ベルキャステル城は、9世紀から11世紀にかけて建築された古城。その後廃墟となったが、米国の建築家が復元し、2005年に現在の形になった。

古城の視察後、「アヴェロン・ひょうご友好の橋」を視察した。この橋は、老若男女問わず誰でも安全に渡れる橋として2013年に架けられた。新しい橋を建設するに当たって兵庫県パリ事務所が「ユニバーサル社会」の考え方を紹介し、これがベルキャステル村に受け入れられた。こうした経緯から村の要請もあって井戸知事が「アヴェロン・ひょうご友好の橋」と命名した。命名者である井戸知事の来訪を記念して、記念プレートの除幕式が行われた。この橋が、村人のハイキングコースとして子供からお年寄りまで、また車いすの利用者にも幅広く親しまれていることが紹介された。



③ ロデーズ市立スーラージュ美術館視察

- 日 時：平成27年7月13日(月) 14:15～15:30
- 場 所：ロデーズ市内 スーラージュ美術館
- 参加者：
 - (美術館側)
 - アルバニャック副市長、デクロン美術館長 等計9名
 - (アヴェロン県側)
 - ソール副議長(国際担当) 等計5名
 - (兵庫県側)
 - 井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計8名

○ 内 容：

スーラージュ美術館は、アヴェロン県ロデーズ出身の画家で「黒の画家」として有名なピエール・スーラージュの作品を集めた美術館として2014年5月に開館した。美術館は国際コンクールで選ばれたスペインの建築家などにより設計され、既に30万人の来館がある。延床面積6,600㎡。デクロン館長からは日本の書道の影響も受けた彼の作品を含めて、多くの来館者の注目を集めていることなどが紹介された。県立美術館の蓑館長とロデーズ市副市長及びスーラージュ美術館長との間で展示物の相互交流の可能性も含め、美術館交流の協議も行なった。月曜の午後にもかかわらず、多くの人々の来館には驚かされた。



イ セーヌ・エ・マルヌ県訪問

① ジャン・ジャック・バルボー議長との交流協議

- 日 時：平成27年7月15日（水）12:00～13:00
- 場 所：ムーラン市内 セーヌ・エ・マルヌ県庁舎
- 参加者：

（セーヌ・エ・マルヌ県側）

バルボー議長、ピカール副議長（社会問題担当）、セルト副議長（教育担当）、ヴェルニン副議長（観光担当）、セツィエ副議長（文化遺産担当）、ブロー副議長（少年・スポーツ協会担当）、ピルマン議長室長、ジェルミニ県経済振興公社副理事長 等計13名

（兵庫県側）

井戸知事、町村会訪問団（庵途佐用町長及び清水播磨町長）、岡田国際局長、水口観光監、横川パリ事務所長 等計10名

○ 内 容：

今春、セーヌ・エ・マルヌ県で政権交代（左派→右派）があったことから、今後の交流に向けた協議をバルボー新議長と行い、交流の継続・発展を確認した。バルボー議長から「これまで行ってきた経済、文化、教育、人物といった幅広い交流を継続発展させていくことが重要で、そのためには各人の努力が必要であり、これまでの交流をリードしてきた井戸知事と同じ気持ちで取り組む。」決意が表明された。また、井戸知事からはバルボー議長の決意に賛同するとともに、バルボー議長が副議長時代に提案した姉妹都市交流が朝来市とバルビゾン村の交流として実を結び、芸術交流として発展したことに言及し、今後とも様々な分野の交流を推進し、発展させてしていくに合意した。最後にセーヌ・エ・マルヌ県の各分野担当の副議長や、兵庫県町村会訪問団の庵途佐用町長及び清水播磨町長立会いのもと、共同声明に調印し、その後、心のこもった

昼食会が開催された。



※参考 別添3：セーヌ・エ・マルヌ県との共同声明

ウ ノール県訪問

① シルヴィー・ラバダン副議長との交流協議

○ 日 時：平成 27 年 7 月 16 日（木）18:30～19:10

○ 場 所：リール市内 ノール県庁舎

○ 参加者：

（ノール県側）

ラバダン副議長（国際・欧州交流担当）、ピカール県総務局長、ベルトゥ県国際局長、ファノーニ県経済局長、ヴィンセント県文化局部長代理、ブリッダ北フランス商工会議所部長 等計 12 名

（兵庫県側）

井戸知事、養県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計 8 名

○ 内 容：

最初にラバダン副議長から、今回の知事訪問に対する謝意が述べられ、「2013年に調印した共同声明に基づき、今後とも経済、教育、芸術・文化等の分野で交流を力強く進めていく。」旨が表明された。引き続きブリッダ北フランス商工会議所部長からは、来年6月に神戸で開催予定の在日仏商工会議所主催のガラパーティーに参加し、強くノール県をPRしていくことを計画していること、またその際に、①ライフスタイル、②健康、③ビデオ・ゲーム等の企業を兵庫を訪問させたいなどの意向が表明された。

これに対し、知事から当日の視察支援に対し感謝の意を表明した上で、ノール県との交流について「ノール県とは交流の歴史は一番新しいが、中味が濃く、共同声明の分野に限ることなく交流を深めていきたい。」旨表明した。また、今回不在であったルセーフ議長が、できるだけ早い時期に兵庫県を訪問するよう依頼した。その後、須磨学園と交流のあるモンテベロ高校や商工会議所等、日仏交流関係者が参加したカクテルパーティー、副議長主催の夕食会が開催された。



② ルーブル・ランス美術館一帯の都市開発の視察

○ 日 時：平成 27 年 7 月 16 日（木）10:00～11:30

○ 場 所：パドカレ県ランス市内 ルーブル・ランス美術館

○ 参加者：

（美術館側）

デクトー館長、フェラル館長代理、建築家妹島和世氏 計 3 名

（兵庫県側）

井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計 8 名

○ 内 容：

ルーブル・ランス美術館があるランス市は、パリから車で 2 時間、TGV で 1 時間あまりにある街で、かつては、昔は鉱山で栄えたのが、1960 年代の閉鎖で活気を失ってしまった斜陽の街。一時は「フランスで 2 番目に貧しい街」とさえ言われていた。ルーブル美術館分館は、1960 年以降、未開のまま放置されていたかつての鉱山地帯 20ha を有効利用し、市による都市開発事業として施工された。ルーブル・ランス美術館は、2012 年 12 月にオープンし、初年度は 90 万人、2 年目は 120 万人と入館者を伸ばし、観光とは無縁だった炭鉱の街ランスに活力を与えている。常設展示は、紀元前 3,500 年から 1,900 年代に渡る 6 千年近い人類の美術の歴史と「今」を短い時間で感じることもできる展示構成となっている。

当美術館の共同設計者の一人である妹島氏がわざわざ渡仏され、炭坑跡の列車引き込み線を遊歩道として残すなど、炭鉱のイメージを残したことなどの説明をしていただいた。



③ ラ・ピシーヌ産業美術館視察

○ 日 時：平成 27 年 7 月 16 日（木）13:30～14:45

○ 場 所：ノール県ルーベ市内 ラ・ピシーヌ産業美術館

○ 参加者：

（美術館側）ラトフー・パナル事務局長、ベルトゥ県国際局長 等計 4 名

（兵庫県側）井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計 8 名

○ 内 容：

ラ・ピシーヌ産業美術館はリールの北東約 12 キロの場所にあるルーベにある美術館。1932 年から 1985 年まで市営プールであった建物を改造してできたもので、1998 年から 3 年に及ぶ修復改装工事の後、2001 年 10 月に開館された。リール市とそれを囲む一帯「リール首都圏」は、産業革命以降 1960 年代まで

繊維産業が盛んな地域で、ルーベは繊維産業で大きく栄えた町であり、美術館の2階には、『布図書館』があり、世界中のあらゆる種類の布地の見本帳が数千冊納められ、データベース化され、地域・地域産業の再活性化に活用されている。また、中核建物の採光部のステンドグラスに扇のモチーフを採用、同建物2階の手すりに格子状の木組みを採用するなど、日本を意識したデザインも一部に取り入れられていた。年間約20万人の入館者があり、フランス第5位となっている。特にプールは一部がそのまま残され、当時の労働者の唯一の憩いの場としての役割を今に受継いでいるユニークな美術館である。



④ 欧州繊維技術研究センター（CETI）視察

○ 日時：平成27年7月16日（木）15:10～16:10

○ 場所：リール市内 欧州繊維技術研究センター

○ 参加者：

（センター側）ベテラン作業局長、ベルトゥ県国際局長 等計4名

（兵庫県側）井戸知事、葦県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計8名

○ 内容：

国等からの支援を含む総額4,200万ユーロの官民連携事業（EU、国、州、県等70%出資、企業出資及び民間融資30%）として開所した。繊維に関する最新設備が導入され、世界の研究者や企業との進め、新製品のサンプル製作など地域経済を支援している様子を視察した。CETIがある付近一帯は、かつての工業団地跡で繊維、化学、食品工業の工場が稼働していたが、1990年代にそのほとんどが閉鎖され、約10万人の雇用が失われた。これを打破するために地域活性化、再開発事業としてCETIが整備されたもの。なお、CETIと同様の設備を公開している施設は米国（ノースカロライナ州）、韓国と合わせて3か所しかなく、日本などでは繊維関係の大企業が単独で所有しているとのことであった。



⑤ ノール県との文化・美術館交流協議

○ 日 時：平成 27 年 7 月 16 日（木）16:30～18:00

○ 場 所：リール市内 リール市立美術館、ノール県庁舎

○ 参加者：

（美術館側）ヴィンセント文化局長代理、デバルブ マティス美術館長、ベルトゥ県国際局長 等計 5 名

（兵庫県側）井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長 計 3 名

○ 内 容

ルーブルに次ぐフランス第 2 の規模を誇るリール市立美術館（1892 年開館）を視察し、県庁舎内で県立美術館の蓑館長とともにノール県側と文化交流、美術館交流の協議を行なった。

知事からは、「淡路人形浄瑠璃の公演、婦人手芸協会の展示・発表等既に両県の文化交流を実施しており、今後も美術館交流をはじめ芸術・文化交流を推進したい。」旨を表明した。特に県立美術館で予定の「怖い絵」をテーマとする美術展への協力を要請した。

ノール県側からも芸術・文化交流を更に進めるとの県の方針が示され、マティス美術館やリール市立美術館などノール県の各美術館と県立美術館との学芸員等の交流や、県立美術館で開催する企画展覧会への支援の可能性等について協議が行われ、今後も実務的な協議を継続することで合意した。



エ モンマルトル観光協会関係者と協議

○ 日 時：平成 27 年 7 月 14 日（火）19:00～22:00

○ 場 所：パリ市内 モンマルトル地区 同観光協会事務所等

○ 参加者：

（観光協会側）

フルモン会長、ルー副会長夫妻 等計 14 名

（兵庫県側）

井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計 8 名

○ 内 容：

（歓迎式）

パリ・モンマルトル地区の「モンマルトル観光協会」と神戸「北野・山本地区をまもり、そだてる会」（浅木隆子会長）との友好交流協定が結ばれて 10 周年を迎える機会に、モンマルトル地区にある同協会の事務所を訪問した。事務所の入口には地元の少年、少女からなる鼓笛隊（当日は太鼓）が歓迎してくれた。

フルモン会長ほか役員、会員が事務所内を所狭しと取り囲む中、事務所内に飾られた写真などで交流の経過を振り返るとともに、北野・山本地区との交流発展に会員は大いに意欲を見せた。知事は「自らが山本地区の住人であることから当事者意識を持って、両地区の交流に取り組む。」と発言すると、事務所内は大きな歓声に包まれた。その後、鼓笛隊の先導のもと、パリ市内の唯一残る

モンマルトル地区のブドウ畑の視察に向かったが、沿道の観光客からさかんにカメラを向けられ隊列が止まる場面もあった。



(ブドウ畑視察)

1934年以降、修道院におけるワイン製造の歴史を受け継ぎ、パリ市が管理し、無農薬の栽培のブドウからワインを製造出荷しており、希少性から高価な値段で取引されている状況などブドウ園に関する詳細な説明を受けた後、知事は、フルモン会長からメダルの贈呈とモンマルトル地区名誉市民の称号を授けられた。その後、温かな歓迎夕食会が開催された。



(4) フランス政府要人との面談等

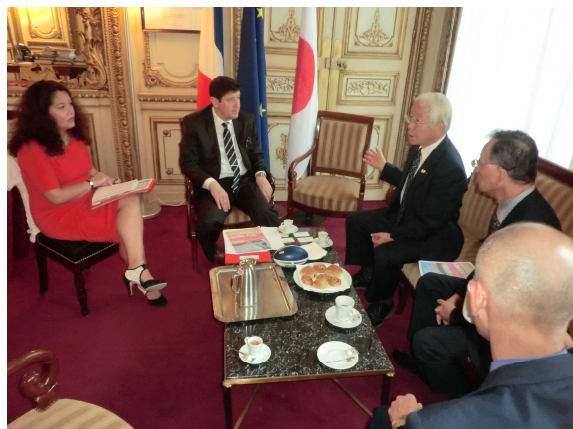
ア パトリック・カネール仏都市・青少年・スポーツ大臣との面談

- 日 時：平成 27 年 7 月 15 日(水) 8:55～9:40
- 場 所：パリ市内 仏都市・青少年・スポーツ省大臣応接室
- 参加者：
(仏都市・青少年・スポーツ省側)
カネール大臣 等計3名
(兵庫県側)井戸知事、養県立美術館長、岡田国際局長 等計4名
- 内 容：

まずカネール大臣から、知事訪仏について歓迎の言葉が述べられた後、「オリンピックやラグビー等の大きなスポーツイベントが続く。日本が事前合宿等大きな期待を抱いていることは理解しており、基本的にはオリンピック委員会が決めることだが、兵庫県との関係もあり協力したい。」旨述べられた。知事からは「兵庫県には柔道競技のための武道場（姫路市）、水泳競技施設（尼崎市）、陸上競技場（神戸市）、テニス場（三木市）等、実績のある施設が整っており、ラグビーワールドカップの試合も神戸で行われる。」旨説明し、事前合宿誘致に向けて協力をお願いした。

また、関西ワールドマスターズゲームズ2021についても説明し、仏側の協力も併せてお願いした。大臣からは、都市政策も担当していることについて、文化やスポーツの持つ力を活用し、地域を改善して行くという考え方を紹介された。最後に大臣から、「自らが神戸で受けた以上の歓迎を井戸知事がノール県で受けられること

を期待し、今後も兵庫県の活動を応援していく。」旨述べられ会談を終えた。



イ 仏外務省クリスチャン・マセ次官との面談

○ 日 時：平成27年7月15日（水）9:50～10:45

○ 場 所：パリ市内 仏政府外務省次官応接室

○ 参加者：

（仏外務省側）マセ次官、カランフィブロビッチ次官補佐官 等計4名

（兵庫県側）井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計8名

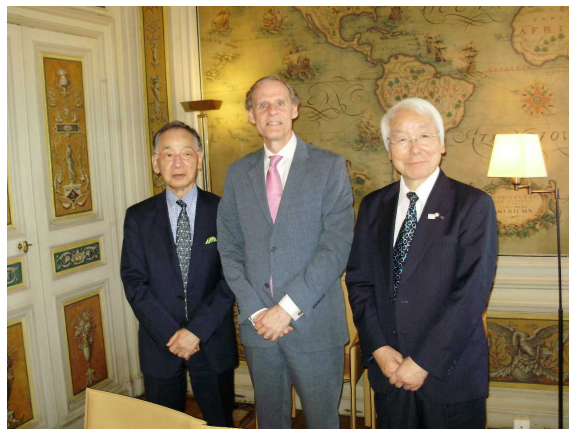
○ 内 容：

前駐日フランス大使としてかねてから知事と親交のあった外務省マセ次官を訪問した。マセ次官は、「兵庫県はフランスとの地域交流の最も活発な県であり、これまでの友好各県との交流を評価するとともに、ミラノ万博参加の機会にフランスの友好各県を訪問することを聞き喜んでいる。」との歓迎挨拶があった。

知事からは、在日大使時の交誼に感謝するとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に際し、仏選手団の日本国内事前合宿を本県で実施されるよう働きかけ、2019年の日本各地で開催されるラグビーワールドカップ、2021年に関西で開催されるワールドマスターズゲームズに対してもフランス側の協力を要請した。

マセ次官からはこれらに対して理解を示されるとともに、サミットの保健大臣会合が神戸開催となったことに関して「医療産業都市の企業、研究機関等の集積は各国が注目している。」とのコメントがあった。

また、蓑館長からは、7月13日に視察したスーラージュ美術館などとの交流についても言及したところ、マセ次官からは、県立美術館と各美術館との交流に理解と支持を示し、協力したい旨発言があった。



ウ フランス国民祭式典への参加

- 日 時：平成27年7月14日（火）10:00～12:00
- 場 所：パリ市内 コンコルド広場内特別観覧席
- 参加者：
（フランス側）大統領、首相、閣僚、在仏各国大使 等
（兵庫県側）井戸知事、兵庫県立美術館長 等計3名
- 内 容：

フランスの歴史において、7月14日は絶対君主制が共和制に変わった日。この日は国家の祝日となり、午前中、フランス大統領出席の下、シャンゼリゼ通りからコンコルド広場まで軍事パレードが実施された。フランス外務省から井戸知事と兵庫県立美術館長がコンコルド広場に設けられた特別席に招待され、オランダ大統領を先頭とする陸海空軍のパレード等を視察した。



(5) パリでの兵庫県プロモーション等

ア 在パリ外交官ガーデンパーティーでの「淡路人形浄瑠璃」上演

- 日 時：平成27年7月14日（火）13:30～15:30
- 場 所：パリ市内 ブローニュの森 パビリオン・ロワイヤル
- 参加者： 各国外交官 等約700名
（日本代表）鈴木在仏日本大使、樋口同総括広報部長、高橋JNT0パリ事務所長
（兵庫県側）井戸知事、西村ひょうごツーリズム協会理事長、當谷ひょうごツーリズム協会理事、水口観光監、森安観光交流課長 等計12名
- 内 容：

フランス国民祭の日に合わせて、毎年テーマをきめて開催されている在パリ外交官のガーデンパーティーに淡路人形座を派遣し兵庫県の観光PRを行った。

鈴木大使から井戸知事及び人形浄瑠璃団が紹介された後、淡路人形浄瑠璃の公演が行われた。人形浄瑠璃公演においては、多くの方が熱心に見学され、公演前後において各国の外交官が人形との写真撮影を行っていた。



イ パリ外国人記者協会における兵庫県観光PR

- 日 時：平成27年7月15日（水）15:30～17:30
- 場 所：パリ市内 ウェストミンスターホテル内サロン
- 参加者：

（外国人記者協会側）

セッキ パリ外国人記者協会会長（イタリア人）ほか外国人記者協会所属記者 計13名

（兵庫県側）井戸知事、中貝豊岡市長、町村会訪問団（庵途佐用町長及び清水播磨町長）、西村ひょうごツーリズム協会理事長、當谷ひょうごツーリズム協会理事、岡田国際局長、水口観光監、横川パリ事務所長 女優イレーヌ・ジャコブ夫妻 等計17名

○ 内 容：

欧州をはじめ各国の方々に兵庫県への理解を深めていただき観光客誘致を図るため、パリ在住の外国人マスコミ関係者を通して兵庫県のPRを行った。

知事からの兵庫県の食と観光のプレゼンテーションでは、今回の訪欧の目的や兵庫県とフランス4県との交流について紹介し、食については、神戸ビーフをはじめ日本酒や海産物などおいしさのPRのみならず歴史も解説した。観光については、お城や芸術、安藤忠雄建築などフランスと関係が深いものをはじめ、四季折々の兵庫や海山の見どころをくまなく紹介した。

知事のPRのほか、豊岡市の中貝市長による城崎温泉やコウノトリを中心としたPRも行った。さらに、浴衣姿のフランス女優のイレーヌ・ジャコブさんが、兵庫県、城崎温泉での滞在経験を語ることで兵庫県の良いところがさらに伝わった。また、前日パリのブローニュの森で公演を行った淡路人形浄瑠璃のデモ解説を行い、伝統文化もPRした。



※参考 別添4：ひょうごの「食と観光」

(6) その他美術館視察

ア ルイ・ヴィトン美術館視察

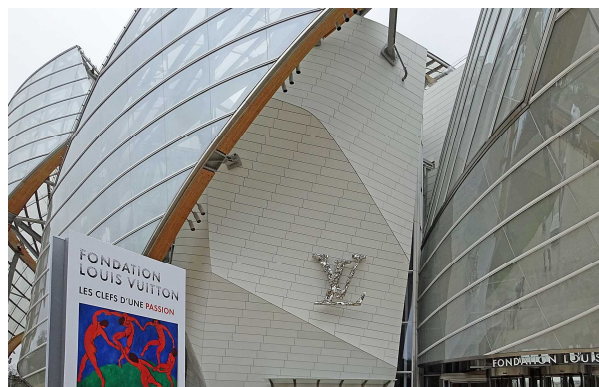
- 日 時：平成27年7月15日（水）18:00～19:00
- 場 所：パリ市内 ブローニュの森
- 参加者：

（美術館側）パジェ美術部長

（兵庫県側）井戸知事、蓑県立美術館長、田中県立美術館副館長、岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計7名

○ 内 容：

ルイ・ヴィトン美術館は、ルイ・ヴィトン財団の依頼により、アメリカを代表する建築家フランク・ゲーリー氏が設計した美術館で、2014年10月にパリのブローニュの森にあるアクリマタシオン庭園の一角にオープンした。「林と庭園に囲まれた自然環境に溶け込み、光と鏡の反射に浮かび上がるヨットや船」がこの建築物のイメージで、3,600枚のガラスを使用している。



知事からは「フランク・ゲーリー作品は、日本では神戸に唯一、『フィッシュダンス』としてハーバーランドにある。秋の来日時には神戸への来訪を期待する。」と伝えた。

イ 王宮「ダヴィンチ展」等視察及びミラノ美術関係者との懇談

○ 日 時：平成27年7月18日（土）17:00～22:00

○ 場 所：ミラノ市内 王宮、ミラノ市立1900年代美術館ほか

○ 参加者：

（美術館側）

ラナルディ ミラノ市芸術・建築・文化遺産監、オリヴァレス ピッコロシター理事、リー氏（画商）、ソンチーニ（銀行家）夫妻 等計8名

（兵庫県側）

井戸知事、石川兵庫県議会議長、菫県立美術館長、田中県立美術館副館長岡田国際局長、横川パリ事務所長 等計9名

○ 内 容：

ミラノを代表する世界遺産でレオナルド・ダ・ヴィンチの絵画作品「最後の晩餐」をサンタ・マリア・デッレ・グラッツィエ教会で視察した後、県立美術館 菫館長の人的ネットワークを活用し、王宮でダヴィンチ展及びミラノ市立1900年代美術館を視察するとともに、ミラノの美術館関係者との懇談を実施。イタリアの現代作家「モランディ展」の開催等、県立美術館との今後の交流促進について意見交換を行った。



（王宮）



（1900年代美術館）

4. 渡航日程

日時	日程	宿泊地
7月12日(日)	出発 パリ着／パリ発 トゥールーズ着／トゥールーズ発 ロデーズ(アヴェロン県)着	ロデーズ泊
7月13日(月)	ベルキャステル村視察 アヴェロン県議長表敬訪問・交流協議 ブランケ前アヴェロン県副議長県功労表彰授与式 ロデーズ発 トゥールーズ着／トゥールーズ発 パリ着	パリ泊
7月14日(火)	フランス国民祭視察 兵庫県観光プロモーション(淡路人形浄瑠璃公演) モンマルトル観光協会関係者との協議	パリ泊
7月15日(水)	カネール都市・青少年・スポーツ大臣との面談 マセ外務省次官との面談 ムーラン(セーヌ・エ・マルヌ県)へ セーヌ・エ・マルヌ県議長表敬訪問・交流協議 パリへ 兵庫県観光プロモーション(パリ外国人記者協会)	パリ泊
7月16日(木)	リール(ノール県)へ 欧州繊維技術研究センター等視察 ノール県副議長表敬訪問・交流協議	リール泊
7月17日(金)	リール発 パリ着／パリ発 ミラノ着 ミラノ国際博覧会イタリア館視察 兵庫県主催ミラノ市内プロモーション参加	ミラノ泊
7月18日(土)	ミラノ国際博覧会日本館視察 ミラノ国際博覧会日本館兵庫県プロモーション参加 美術館関係者との交流協議	ミラノ泊
7月19日(日)	ミラノ発 パリ着／パリ発	機内泊
7月20日(月・祝)	帰国	

(問い合わせ先)

産業労働部国際局国際交流課交流企画班

TEL : 078-362-3026